

## 子供世代の食育推進について

団体名	三丘保育園 (深町 和子)	菊川幼稚園 (増原 恵子)	大河内小学校 (清水 茂雄)	熊毛学校給食センター (久保島 朋子)	周陽小学校PTA (花本 智恵美)
計画目標達成のために各団体が取り組むこと	<p>○日々の食事の大切さを感じ、家庭と園が連携を持って関心を深め実践する。</p> <p>・食材について知る(栽培、収穫など)感謝の気持ちにつなげる。</p> <p>・バランスの良い食事を心がける。</p> <p>・調理すること、それを食することの楽しさ、喜びを知る。</p> <p>・家族で食卓を囲み、コミュニケーションを図る大切さを感じ実践する。</p> <p>・食事のマナー、しつけ</p>	<p>○食事の際の挨拶 「いただきます」「ごちそうさま」が自然に言える習慣作り。 園のみでなく家庭での実践につながるよう、家庭への働きかけの工夫。</p> <p>○食事のマナー 楽しく食事をする雰囲気の中でのマナーの指導(はしの持ち方・姿勢など)。</p> <p>○食べる喜び 野菜の栽培・クッキング等を通しておいしく食べる体験。</p> <p>○食についての関心を高める 「あさごはんチャレンジ」や「三色食品群」について、知る体験を通して。</p>	<p>○指標項目で、H25年度の目標値を大きく下回る次の項目は重点化する必要がある。</p> <p>①食事の前のあいさつ(指標項目1) ②「食育」の言葉と内容(指標項目7) ③食べ残しをなくす(指標項目9) ④食の安全(指標項目10) ⑤毎食(3食)野菜の摂取(指標項目12)</p> <p>各校の現状をしっかりと分析し、食育の年間指導計画に目標と指導項目の関連付けをして単元配置をする。</p> <p>○「食育」には、学校・家庭・地域の連携が必要である。 「食育」の正しい言葉とその内容、大切さを理解している人が非常に少ないので、学校・家庭・地域に啓発する。 (CSを活用、学校栄養教諭や食推との連携など)</p> <p>○子どもに野菜作り、米作りなどの体験活動が必要である。 体験活動によって、生産者の苦労や努力を知るとともに、感謝の気持ちを持つことができる、食の安全も考えることができるなど、子供の心に響く多くの「食育」の目標が設定できる。</p>	<p>(1)第2次周南市食育推進計画の目標(P38)及び「学校での取組」(P30,31)を全教職員に周知する。</p> <p>(2)栄養教諭・学校栄養職員としての取組 ・栄養バランスに配慮した給食を提供し、給食を生きた教材(指導資料)として活用し、子供たちに「バランスの良い食事」とは何かを学ばせる。</p> <p>・「給食の時間における食に関する指導年間計画(周南市小学校研修会 学校栄養部会作成)」に基づき、伝統的な行事食・郷土料理・カミカミ献立・地場産給食・『がぶっ！と食べよう山口』県産100%献立等を実施し、給食で提供する際に献立表や放送原稿等を活用し紹介する (学校給食センターでの取組)</p> <p>・試食会、学校保健安全委員会、食育だよりやアンケート、学校行事や給食時間、授業等の機会をとらえて、朝食や毎食野菜摂取、共食の大切さについて繰り返し啓発を行う。</p> <p>・各校が取組んでいる朝食調べ、生活アンケート、給食の残量調べ等を児童生徒委員会活動や学校保健安全委員会活動に活かせるよう支援する。 (調べた結果をもとに、児童生徒・保護者が主体的に改善に向けて活動に取り組めるようサポートする)</p> <p>・感謝の心の育成のために、給食センターでの調理の様子や働く人々の願いを、子供たちに伝える機会をもつ (給食が校外の給食センターから届くので、できるだけ過程を体感したり、関わる人々の苦労を実感することが難しいため)</p>	<p>○早寝早起き(生活習慣)</p> <p>○家庭での食事</p> <p>○「食」に関する知識</p>
取り組みを推進するための課題	<p>○家の人に興味を持ち、理解した上で、意欲的に取り組んでもらうきっかけづくり、意識付け又その方法</p> <p>○園行事で親子でクッキングや野菜収穫など取り入れてはいるが、その時の楽しさで終わってしまう。家でも野菜を育てたり、親子クッキングなど、やってみようとする家庭もみられるが、特定少数に限られる。</p>	<p>○職員の意識向上 マナー・食についての知識等については個人の経験やそれまでの生活習慣によって様々である。正しい知識と望ましい食習慣について職員自身が学ぶ必要がある。</p> <p>○家庭への情報提供と強力体制づくり 互いに情報提供し合いながらよりよい食生活につながっていくような関係を作っていく必要がある。</p>		<p>上記(1)について ・食への関心度には大きな差がある。試食会や学校保健安全委員会等に参加する保護者は食育や子供の健康に関心が高い方が多いが、目標達成のためには「食への関心が低い家庭」にどのようにアプローチするのが課題</p> <p>・子育て世代の女性の欠食を改善する取り組みが「子供世代の食育推進」に繋がると考える。 関係部局との連携を進め、子育て世代への食育活動の充実への協働が課題。</p>	<p>○家庭と学校が連携をする</p> <p>○家庭からは一緒に食事の準備をしながら子どもへ直接伝える。</p> <p>○講師を招いて講演会 子供向け、親向けの健康・食に関する事柄 (※特に小学校は1年～6年までの幅があるのでわかりやすく、親も簡単に協力ができるように提案をしていく)</p>

## 子供世代の食育推進について

団体名	周南市母子保健推進協議会 (兼重 江美子)	周南市食生活改善推進協議会 (石田 紀恵)	山口県栄養士会周南地区専門部会 (中村 菜由)	JA周南 (桑原 正徳)	漁業協同組合 (藤村 和義)
計画目標達成のために各団体が取り組むこと	<p>○地域の子育て支援に関わる中で、サークル活動や家庭訪問を通して親子で食に関心を持ってもらえるように、食推と合同で「おむすびとみそ汁の試食会」を開催し、だし汁のとり方や塩分の話をお願いしている。</p> <p>○その他に新南陽地区では、お弁当作りやふりかけ作りなど、親子で楽しんでもらえるサークルを実施している。</p> <p>○また、0歳からのむし歯予防が大切であることから、歯科衛生士に歯の話と歯磨きを指導してもらっている。 毎年母推で歯ブラシを購入し、無料で対象児に配付して虫歯予防の啓発を行っている。</p>	<p>○イベント等で食育を発信することも良いが、日々食育を発信し続けることが大切だと思う。</p>	<p>○栄養バランスを考えた食事、野菜をしっかり食べることの大切さを知ってもらうため、健康祭り等で体験型のイベントを実施する。</p>	<p>○食育推進市民会議として、シンプルでわかりやすいテーマを定め、横断的な取組ができればと思う。</p> <p>下関では3年前から食育推進会議の発案で、地元の米のおいしさを認識し、日本型食生活の推進につなげるため『おにぎりの日』を実施しているとのこと。JAや市役所、保育園などで100名を超える参加者があったようです。</p> <p>JAとしても各支所で様々な取組をしているが、まだまだ点での活動になっているので、地域との連携による線の活動、面の活動にしていきたいと考えている。</p>	
取り組みを推進するための課題	<p>○子育てサークルに参加される方は一部で、なかなか全ての対象者に伝えていくことができない。</p> <p>○また、家庭訪問をしても会えないことも多く、ポスティングすることしかできない場合もある。</p>	<p>○食育推進計画を一部の行政団体が個々に進めるのではなく、連携できるとよい。</p> <p>○進める側の何を伝えるか、どう伝えるかということの勉強が必要だと思う。</p>	<p>○イベントを実施する際に、子供世代の参加者を集めることが難しい。</p> <p>○子供主体のイベントに栄養士会として参加する機会がない。</p>	<p>シンプルなテーマで、まずは実行できるかが課題。実行することで見えてくるものもあるのではないと思う。</p>	

## 子供世代の食育推進について

団体名	農事組合法人 洪川 (安永 芳江)	公募委員 (井上芳佳)	公募委員 (牛島和子)	公募委員 (大元寛美)
計画目標達成のために各団体が取り組むこと		<p>○地域、関係団体が直接関与することはなかなか難しい。 特に幼児期の食育に関しては家庭内での実践が主となってくると思われるので、それをいかにサポートできるかが必要になってくると思われる。</p>	<p>○幼児期から家庭環境の中で、手作りの良さ、美しさを伝授しながら学習として推進する。</p> <p>手作り料理をすることで生活改善にもつながるのではと思う。</p> <p>まず、親子で料理をする機会を持っていただく。又、地域の公民館などで子育て中の親御さんの食育講座を定期的開催。</p> <p>市広報誌などに管理栄養士の協力を得て、親子で作れる手軽なレシピを掲載(月1~2回)してもらう。</p>	<p>○子供が参加できる企画をさらに増やしていくと良いと思う。</p> <p>○地域としては、毎月第○△曜日に公民館で何かができるとういと思う。</p> <p>○添加物の少ないものや農薬の少ないもの、使っていない食べ物も大切だと伝えられる何かを考えられると良い。</p>
取り組みを推進するための課題		<p>○サポートの面では、家庭内でできる食育の紹介等を発信していく必要があると思われる。</p> <p>子供世代の食育はまず、食事が楽しいこと等、具体的な課題、目標を取り決め、各課題を関係団体へのセミナー、教育機関への働きかけを行う事も大切だと思う。</p> <p>まずは、統一認識を持ったうえで市内の子供世代、親世代環境へ発信していく必要があると思われる。</p>	<p>○現在は、共働きの家庭が多く、なかなか一緒に料理を作る時間や機会をとるのが難しいと思うが、幼稚園や学校などに行事としての取組を呼びかける。</p> <p>地域の方にも食育推進についての声掛け、協力をしていただき、気長にできる食育体制が望ましいと思う。</p>	<p>○働いているお母さんも参加できるもの考える。</p> <p>○1年を通して取り組めるもの考える。</p>